

第3章 [各分野別の施策の状況]

1. 廃棄物の削減と適正処理

(1) リデュース（発生抑制）、リユース（再利用）の推進	（リーディング事業）
(2) リサイクル（再資源化）の推進	1-1 市民参加で取り組むごみのないまちづくり事業
(3) 適正な処理の推進	1-2 食品廃棄物リサイクルの推進事業
(4) 処理施設の整備と適正管理	1-3 3R（リデュース、リユース、リサイクル）の推進

「特集」

○ 燃やすゴミの組成調査を開始しました。

飯田市では埋立ごみの組成調査と併せて、燃やすごみの組成調査を平成 21 年度から開始しました。燃やすごみの組成調査では、塵芥収集業者が環境衛生担当委員会の地区から収集した燃やすごみから、無作為に 5 袋を桐林クリーンセンターへ搬入し、環境課の職員、環境委員等の 5 人から 10 名がごみ袋を破り、燃やすごみ、紙資源等の分類に分けて、計測し、市内 20 地区の組成調査を行いました。

埋立ごみ及び燃やすごみの組成調査を環境衛生担当委員会の研修と、担当地区のごみの分別状況など現状を認識いただき、ごみ分別指導及びごみ集積所・リサイクルステーション運営管理、資源化の推進と排出者への指導、住民へのごみ分別の研修会等に活用いただいています。数値結果は、ホームページやパネルにして、学習会等で活用しています。

燃やすごみの組成調査の様子



1 廃棄物の減量と適正処理

(1) リデュース（発生抑制）、リユース（再利用）の推進（*はリーディング事業）

施策の名称	実施事項	環境に対する効果	実施主体	H21決算額 (円)	款・項・目 (細々目名)
*リユース 食器の活用	4 / 2 5 の野底山森林公園まつりの豚汁サービスにリユースの容器を使用しています。	廃棄物の抑制に繋がります。	野底山森林まつり 実行委員会（上郷 婦団連）	89,000	
環境標語の 掲載	鼎高齢者クラブがチラシ等の古紙を利用して作った封筒を本庁市民課窓口とりんご庁舎市民証明コーナーに配置し来庁者に利用してもらうことで、窓口で配置してある市民封筒の利用を削減するとともに、資源の再利用を図りました。平成21年度の再利用封筒年間使用量は2,094枚。	<ul style="list-style-type: none"> ・年間2,000枚以上の市民封筒の利用削減 ・再利用封筒には鼎高齢者クラブが作成したものであることを明示し、来庁者に対してリユース、リサイクルであることを周知するとともに、環境へ配慮した取組であることをアピールしました。 	鼎高齢者クラブ 市民課	なし	
*買い物袋 利用推進 キャンペーン	市内大中小型店24店舗の入口で、チラシ配布によりマイバック持参の啓発活動を行いました。	「ごみとなるものを買わない、使わない」という意識の向上につながりました。	各地区まちづくり 委員会環境衛生担 当委員会 環境課	なし	
地域環境美 化推進モデ ル事業（ご み減量対策 事業）	各地区まちづくり委員会環境衛生担当委員会を中心に、地域ぐるみの活動として自ら決めたごみ減量の取組みを行っています。	焼却ごみの減量及び古着の再利用の啓発に効果がありました。	各地区まちづくり 委員会環境衛生担 当委員会 環境課	1,884,000	04-02-01 (環境美化推 進費)

施策の名称	実施事項	環境に対する効果	実施主体	H21決算額 (円)	款・項・目 (細々目名)
ごみ処理費用負担制度の推進	<p>ごみの減量を目的に制度を導入し、市民に理解を得られ定着しました。</p> <p>平成15年度からダイオキシン類対策のために新桐林クリーンセンターが稼働しました。管理運営費の増大に伴い、クリーンセンターを利用する14市町村で処理経費を統一して受益者負担をしています。平成21年度の制度運用の証紙収入は、1億4,345万円となりました。この証紙収入金は制度の運用経費のほか、ガラスビン・ペットボトル・プラ資源回収等、ごみの減量・リサイクル推進・環境美化を推進するための施策、並びに桐林クリーンセンター運営負担金に充てられています。</p>	<p>ごみの減量、リサイクルの推進、分別の徹底に効果があり、処分ごみ（燃やすごみ・埋立ごみ）が前年度対比8%減少しました。</p>	<p>南信州広域連合 環境課</p>	<p>16,017,951</p>	<p>04-02-01 (リサイクル 収集推進事業 費)</p>
*ノーレジ袋の推進	<p>地球温暖化防止一斉行動の中でノーレジ袋(グリーンコンシューマー)の取組を次のように実施しました。</p> <p>1. 実施期間 6/5～11、10/19～25、平成22年2/16～22 (計21日間)</p> <p>2. 参加対象 飯田・下伊那地域の事業所・個人</p> <p>3. 実施内容 買い物時にマイバッグ等を持参してレジ袋を辞退する(家族の取組も可)</p> <p>4. 実施結果 ①参加事業所325事業所・参加人数77,795人(延べ)</p>	<p>ノーレジ袋(グリーンコンシューマー)の取組によって削減されたCO2の量約1.4トン</p>	<p>地域ぐるみ環境ISO研究会 環境課 地球温暖化対策課</p>	<p>なし</p>	
リサイクルバザーの実施	<p>平成22年2月11日(建国記念の日)に飯田勤労者福祉センター3階研修室において、リサイクルバザー(不用品交換会)を飯田市連合婦人会主催・飯田市共催で実施しました。また、同時に環境講話「わたしのまちのリサイクル」と題して(株)プリテック海野優氏の講演会を開催しました。</p> <p>リサイクルバザーは、出品点数761点、入場者数は200人で、衣類・食器・洗剤などの不用品の再利用を行いました。</p>	<p>不用品の再利用とその意識啓発、廃棄物の削減ができました。</p>	<p>飯田市連合婦人会 男女共同参画課</p>	<p>67,000</p>	<p>02-01-07 (消費生活推 進事業費)</p>

施策の名称	実施事項	環境に対する効果	実施主体	H21決算額 (円)	款・項・目 (細々目名)
監査(不要物品の確認)	<p>各課等の現地検査時に、不要物品等の確認を行い、監査報告をします。</p> <p>○H21.4.14 山本・三穂・川路・中村・殿岡・龍江・竜丘・鼎東・鼎みつば各保育園、鼎幼稚園 ○H21.4.16 三穂・川路・伊賀良・山本・竜丘・鼎各小学校、旭ヶ丘・竜峡・鼎各中学校、矢高共同調理場 ○H21.9.1 上郷自治振興センター(公民館含む)、鼎自治振興センター(公民館、保健センター含む)、会計課、鼎防災センター・鼎児童クラブ、伊賀良防災備蓄倉庫、伊賀良自治振興センター(公民館、保健室含む) ○H21.9.7 介護高齢課(介護特別会計含む)、福祉課、子育て支援課、休日夜間急患診療所、商業・市街地活性化課、企画課、選挙管理委員会事務局 ○H21.9.11 療育センターひまわり、竜東デイサービスセンター、上郷デイサービスセンター、西部デイサービスセンター、北方寮、第二飯田荘 ○H21.10.7 市立病院、サンヒルズいいだ、竜丘児童センター、学校教育課、浜井場児童クラブ、高松児童館、上郷児童クラブ、座光寺児童センター、別府児童館、鼎児童センター、橋南児童クラブ ○H21.10.14 日夏歌之助記念館・柳田國男館、鼎図書館、松尾児童クラブ(まつぼっくり)、下久堅児童クラブ、上久堅児童クラブ、龍江児童クラブ、川路児童クラブ、三穂児童クラブ、三穂クラブハウス、伊賀良児童クラブ(かさまつのさと)、切石児童クラブ(切石学習交流センター)、丸山児童センター ○H21.10.19 生涯学習・スポーツ課、座光寺河川敷運動場、総合運動場(松尾明)、旧小笠原書院・小笠原資料館、飯田運動公園、鼎体育館、矢高運動場 ○H21.10.21 上郷体育館、市営弓道場、県民運動公園、風越山麓研修センター、羽場公民館、文化会館、黒田人形浄瑠璃伝承館 ○H21.10.23 上村自治振興センター、上村山村文化資源保存伝習施設、南信濃自治振興センター木沢出張所、南信濃自治振興センター、南信濃民芸等関係施設(報告) ○H21.6.30 監査報告書I ○H22.2.8 監査報告書IV</p>	<p>不要物品が減少することにより</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保管、管理エネルギーの削減 ・不要物品の利活用の促進 ・購入数量等の厳密化が図られます 	監査事務局	なし	

(2) リサイクル(再資源化)の推進(*はリーディング事業)

施策の名称	実施事項	環境に対する効果	実施主体	H21決算額 (円)	款・項・目 (細々目名)
地球温暖化防止一斉行動	<p>地球温暖化防止一斉行動の中でエコキャップ運動を次のように実施しました。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実施期間 6/1～30、10/19～25(計37日間) 2. 参加対象 飯田・下伊那地域の事業所・個人 3. 実施内容 ペットボトルキャップの回収 4. 実施結果 回収されたエコキャップの量約480kg(およそ192,000個) 	<p>ごみとして焼却処分されたと仮定した場合にエコキャップ運動によって削減されたCO2の量約1.5トン</p>	<p>地域ぐるみ環境ISO研究会 地球温暖化対策課</p>	なし	

施策の名称	実施事項	環境に対する効果	実施主体	H21決算額 (円)	款・項・目 (細々目名)
アルミ缶資源回収	座光寺では平成13年度からアルミ缶の分別回収を行っています。現在、各リサイクルステーション及び座光寺自治振興センターで分別回収し、回収事業による収入は地域の環境美化のために役立っています。	地域ぐるみのリサイクル活動による収益が地域に還元されることにより、リサイクルの推進に繋がっています。	座光寺地域自治会 環境衛生委員会		
資源物回収の実績	小学校PTA15、中学校PTA7、婦人会3、合計25団体により、延べ43回資源物回収が行われました。収集された古紙は、新聞、ダンボール、雑誌その他で合計1,057トンになりました。その他にもビールびん、アルミ缶、牛乳パックの回収を併せて行っています。	学校、団体等地域ぐるみの取り組みであるとともに、家庭内で子と親が協力して分別を実践することにつながっています。	資源物回収団体連絡会 環境課	3,170,631	04-02-01 (リサイクル収集推進事業費)
水砕スラグの有効利用	桐林クリーンセンターから排出される熔融スラグをインターロッキングの原料、公共事業用の擁壁工事の材料として引き取ってもらっています。平成21年度の引き渡し量は529.84tでした。	埋立処分量の減量及び再資源化されるスラグの有効利用ができました。	南信州広域連合 (桐林クリーンセンター)	なし	

(3) 適正な処理の推進 (*はリーディング事業)

施策の名称	実施事項	環境に対する効果	実施主体	H21決算額 (円)	款・項・目 (細々目名)
*空き缶等散乱防止ポスター募集及び掲示	ごみの散乱防止など広く環境に関する啓発活動の一つとして、市内小学校4年生を対象に募集しました。対象児童数(1,070人)の5割に当たる502作品の応募があり、35作品を入賞作品として選考して「生活と環境まつり2009」の会場で展示しました。また、市長賞最優秀作品は、ポスターとして印刷し、市の関係機関、金融機関等210箇所に掲示しました。	児童及び地区住民の環境意識の高揚に効果があります。	環境課	219,588	04-02-01 (環境美化推進費)

施策の名称	実施事項	環境に対する効果	実施主体	H21決算額 (円)	款・項・目 (細々目名)
*外国語ガイドブックによる説明会の実施	平成17年度に作成したごみの排出方法についての外国語看板をもとに、長野県地域共生コミュニケーターの協力を得て各会場で通訳を手配したうえで外国人向けの説明会を実施しました。また、さまざまな環境で暮らしてきた人がいる中でも、ごみを適正に排出してもらえるよう検討をしました。	外国人居住者に正しいごみ分別方法を知ってもらうことができました。また、ごみリサイクルカレンダーの表記方法など市への要望も出され、外国人居住者が困っている状況等を把握でき、外国語版のごみリサイクルカレンダーづくりに反映させることができました。	環境課	なし	
*外国語ごみリサイクルカレンダー、ごみ看板の作成	市内在住の外国人向けに、英語、中国語、ポルトガル語、韓国語、タガログ語、スペイン語の6言語ごとにごみ分別ガイドブックと英語、中国語、ポルトガル語の3言語、平成22年度版の外国語のごみリサイクルカレンダーを作成し、希望者に配布しました。また、外国語のごみ看板を作成し、配布をしました。	ごみ出しルールを説明する印刷物ができたことにより、以前よりもごみ分別への理解が進みます。	環境課	80,000	04-02-02 (ごみ収集処理費)
*展示パネル、ビデオ、図書の貸出し	飯田市環境衛生担当委員会連絡会と共同で「ごみの分別方法」、「埋立ごみの組成調査」を多くの市民に知ってもらい、取り組んでもらうため、パネルを作成し、「生活と環境まつり2009」で展示しました。平成21年度は、各地区の文化祭やイベントで環境衛生担当委員会等に展示パネルを貸出し、市民の啓発に利用してもらいました。	新しい制度、ごみ分別の現状等についての啓発ができました。	環境課	なし	
*ごみ問題副読本の配布	身近なごみ問題を学習してもらうため、小学校4年生を対象に、飯田市のごみ分別に合わせて作成した「ごみ探偵団が行く！」という副読本を市内19の小学校に配布しました。	学校での社会見学に合わせて、児童のごみ問題への意識高めることができました。	環境課	409,500	04-02-01 (リサイクル収集推進事業費)
*ごみ減量啓発活動	座光寺地域文化祭に参加し、ごみ分別についてパネル展示と、ごみの分別体験を実施しました。	地域住民に正しい分別方法の理解を深めてもらい、ごみ減量に関する啓発活動ができました。	座光寺地域自治会 環境衛生委員会		

施策の名称	実施事項	環境に対する効果	実施主体	H21決算額 (円)	款・項・目 (細々目名)
*ごみ分別啓発活動	毎年4月、各常会長(544名)を対象に下久堅公民館にてごみの分別の方法、集積所の管理、不法投棄への対応などについて学習しています。特にごみの分別の方法については市環境課から職員を講師に迎えてより具体的に、細部にわたって確認を行っています。	地区住民に対するごみ分別に対する知識と意識の向上。	下久堅地区まちづくり委員会環境保全委員会	12,486	まちづくり委員会会計
*ごみのポイ捨てをしないさせない住民運動	伊賀良地区内団体への通知文及び組合回覧文書に「ポイ捨て防止運動」標語コンクール優秀作品を入れ、住民意識の啓発活動に取組ました。	地区内で募集した標語を入れることで、いっそう身近になり、また、会議通知とあわせて発送することにより単独で通知するより節約化が図られました。	伊賀良自治振興センター		
*ごみの適正処理啓発と不法投棄防止パトロール市民ボランティア	リデュース・リユース・リサイクルによる循環型まちづくりを目指して、5講座を実施しました。公募により7名が参加して、ごみ減量化、不法投棄等の学習や施設の見学を行いました。	参加者が地域のリーダーとしてボランティアを養成しました。	環境課	36,300	04-02-01 (環境美化推進費)
*市民生活におけるごみ分別と適正な排出の推進	平成15年度から、ペットボトルのラベルを外して「プラ資源」、「紙資源」とすることとなり、リサイクルステーションに市民向け周知の看板を設置しました。また、平成16年10月からは「家庭用パソコンのリサイクル」が開始され、プラスチック製容器包装の収集回数も月4回から毎週1回に増やしました。まだ、埋立処分場に搬入される埋立ごみには、「プラ資源」、「ペットボトル」、「ガラスびん」が多数混じっているので、更に分別の徹底とルールに沿った排出の啓発に努めます。	「プラ資源」の回収は、埋立ごみの減量に大きな成果を上げています。	環境課	なし	
プラ資源収集回数増加	平成13年10月から「プラ資源」の収集を開始し、「プラ資源」として排出しやすく、埋立ごみとして排出されないようにするため、平成21年4月から収集回数を月4回から毎週1回に増やしました。収集量は前年度と比較して、9.3パーセント減少しました。	「プラ資源」としての排出量が増加し、埋立ごみ量が減少して、リサイクルの推進につながることが期待されます。	環境課	69,229,260	04-02-02 (ごみ収集処理費)

施策の名称	実施事項	環境に対する効果	実施主体	H21決算額 (円)	款・項・目 (細々目名)
ごみ集積所の適正な管理及び整備の推進	各地区では、環境衛生組合役員をはじめ地域住民による集積所管理並びに周辺の美化に積極的に取り組んでいます。 アパート等宅地開発によるごみ集積所の設置要望、野外焼却の禁止や焼却炉の構造基準の改正及びプラ資源の分別回収の実施などごみ収集の状況変化に対応しています。 市民の適正処理を推進するために、集積所の適正配置を進めています。 ごみの分別状況等の現状を把握するために、環境課でごみ集積所の監視と台帳等を整備するために、ごみ集積所の写真記録を行い、環境衛生担当委員会連絡会で分別の徹底を啓発しました。	集積所周辺美化（まちなみの景観保全）及び市民の廃棄物の適正処理の推進につながります。	環境課	7,660,000	04-02-01 (環境美化推進費)
粗大ごみ戸別収集	飯田市では、高齢者世帯など、大型ごみを処理施設に搬出運搬ができない世帯を対象に有料の粗大ごみ戸別収集を行っています。平成21年度は、64戸、128点の粗大ごみを戸別収集しました。	粗大ごみの適正処理につながります。	環境課	248,280	04-02-02 (ごみ収集処理費)
*燃やすごみ・埋立ごみ組成調査の実施	桐林クリーンセンターに持ち込まれる「燃やすごみ」、グリーンバレー千代飯田市最終処分場に持ち込まれる「埋立ごみ」について、20地区からサンプルをとり、組成調査を行いました。結果としては、燃やすごみの対処物は85.3パーセントで、資源になるリサイクル紙が10.4パーセントという結果でした。また、埋立ごみの対処物は63.7パーセントで、埋立ごみ以外が36.3パーセントという結果でした。 「プラ資源」、「ペットボトル」、「ガラスびん」が多数混じっています。調査結果は、環境衛生担当委員会連絡会で各地区に伝え、飯田市全体の結果については展示パネルを作成し、分別の徹底につながるよう啓発に努めました。	組成調査は、ごみの分別状況を知る基礎資料となり、さらに市民にごみ分別を徹底するための説明資料として活用できます。	環境課	なし	
不法投棄パトロール員の委嘱	平成13年度から各地区に1人、平成20年度は市内に20人の不法投棄パトロール員（任期2年）を委嘱しました。月に2回担当地区内をパトロールし、その結果を飯田市に報告してもらいます。報告をもとに飯田市で廃棄物を回収したり、地元のまちづくり委員会、環境衛生担当委員会自治会等の協力を得て回収したりしました。 平成21年度に飯田市で対応した不法投棄の箇所数は247件で、前年度に比べ1件も増加しました。パトロールによる早期の発見、対応により不法投棄が常習化する場所の増加防止に努めています。	ごみの不法投棄の抑止及び不法投棄が常習化する場所の増加防止に効果を上げています。	環境課	2,032,823	04-02-01 (不法投棄対策事業費)

施策の名称	実施事項	環境に対する効果	実施主体	H21決算額 (円)	款・項・目 (細々目名)
不法投棄の 夜間パト ロール	春・秋のごみゼロ運動と7月に不法投棄の常習地域を中心に、夜間パトロールを行っています。	ごみの不法投棄の抑止及び不法投棄が常習化する場所の増加防止に効果を上げています。	環境課	なし	
不法投棄防 止対策設備 設置補助事 業	不法投棄の常習場所への防止用フェンス・ネット、看板等の設置に対する助成事業として、平成13年度から設置費用の3分の2を飯田市が補助しています。 平成21年度は、龍江地区へ不法投棄防止フェンス、下久堅・南信濃・鼎・丸山地区へ不法投棄看板、千代・上村地区へごみよけトリーを設置に対して7件の補助金を交付しました。	地域での不法投棄防止対策を支援し、地域での取組みによる住民の問題意識の共有に効果を上げています。	環境課	636,300	04-02-01 (不法投棄対策事業費)
収集事業者 への研修	飯田市の塵芥収集委託業者と月1回懇談会を開き、市民からの要望や業者からの意見を聞き、業務の合理化、効率化を図っています。平成21年度は安全対策に関して委託業者の従業員を集め、研修を行いました。	正しい知識を共有することによりごみ収集活動の円滑化が図られました。	環境課	なし	

(4) 処理施設の整備と適正処理 (*はリーディング事業)

施策の名称	実施事項	環境に対する効果	実施主体	H21決算額 (円)	款・項・目 (細々目名)
*リサイク ル工場見学	桐林の環境産業公園では、小中学生や市民団体などの工場見学を受け入れています。リサイクルの様子を実際に見学してもらうことにより、環境学習や環境保全に対する普及啓発を推進しています。平成21年度の見学者数は、36団体1,649人です。飯田市内の小中学校では、のべ13校、882人が工場見学をしています。また下伊那農業高校でも、環境科学基礎の学習の中で、地域の保全と創造についてということで見学を通して学んでいます。	工場の見学をとおし、循環型社会の形成について学び、環境に対する意識の向上の寄与しています。	環境課	240,000	04-01-05 (環境教育推進費)

施策の名称	実施事項	環境に対する効果	実施主体	H21決算額 (円)	款・項・目 (細々目名)
一般廃棄物 最終処分場 建設事業	<p>処理施設の整備を平成20年度に引き続き実施しました。 整備内容：平成21年4月1日の供用開始と併せて機器等の整備 名称：飯田市最終処分場 <グリーンバレー 千代> 敷地面積 51,256㎡ 埋立面積 13,800㎡ 埋立容積 約 101,000㎥ 受付棟 1棟 浸出水処理施設棟 1棟 浸出水1日最大処理量能力 60㎥/日 処理水質 PH 5.8~8.6 BOD 60mg/ℓ以下 SS 60mg/ℓ以下</p> <p>1, 処分場建設供用に伴う機器等整備 (1) 埋立作業用大型機械整備 ①油圧ショベル購入 1台 ②破砕機購入 1台 ③関連機械 発電機ほか購入 1式</p> <p>2, 処分場建設供用に伴う施設整備 (1) 資源物保管庫設置 (2) 飛散防止ネット設置</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新処分場施設を整備し、家庭系一般廃棄物の適正処理を長期に実施します。 ・環境に配慮し、二酸化炭素排出削減に努めています。 <p>①太陽光発電設備15KW設置 ②太陽光と風力発電設備の外灯設置 ③雨水利用タンク設置 ④環境に配慮した機器の購入</p>	環境課	41,933,000	04-02-02 (ごみ収集処理費)
一般廃棄物 最終処分場 管理事業	<p>飯田市最終処分場の浸出水は、処理施設により処理し、1級河川米川へ放流しています。この浸出水については年3回、処理水については毎月1回水質検査を実施しています。このほか、旧処分場周辺の地下水についても水質検査を実施しています。特に環境基準を超える値は確認されませんでした。 「資料編 第1章 10処分場の概要 (7)最終処分場排水水質測定結果」参照</p>	<p>排水の水質管理により、公共水域の水質保全につながります。</p>	環境課	32,580,000 6,014,000	04-02-02 (ごみ収集処理費)
*「飯田市堆肥センター」 の運営	<p>飯田市堆肥センターが平成16年6月から稼動し、平成21年度は畜ふん3,215.65トン、生ごみ511.60トン、きのご糞培地1,007.00トンから堆肥1,958.22トンを生産しました。</p>	<p>①生ごみの焼却や、家畜排泄物・きのご糞培地の野積み・素掘り処理による環境負荷の低減 ②化学肥料や農薬の多投で収量低下を来している農地の地力再生 ③地域内の食農循環の再構築(地域から出る有機性廃棄物を元に堆肥を生産し、土づくりを進め、採れた農作物を地域内で消費する)</p>	農業課	1,695,164	06-01-04 (持続的農業推進事業費)